

金沢地方裁判所 御中

意見陳述書

原告 山本 佳代子

私は 2024 年 3 月末まで、中学校の社会科教員でした。社会科では、生徒が日本や世界の様々な課題に目を向けて自分の考えを持ったり、自分なりの課題解決方法を考えたりする学習がとても大切であると考えます。そのような学習を通して、生徒には平和でより良い社会を作る力、持続可能な社会を実現する力を身につけてほしいと願いながら、社会科の授業をしてきました。以下、「日本のエネルギーと発電」に関する授業内容から、中学 2 年生の生徒がこれからの発電について考えたことを紹介し、次世代を担う生徒の意見に心を寄せて下さることを願って陳述します。

この授業で、生徒は教科書などで「世界の主な国の発電量の内訳」、「日本のエネルギー源の変化」、「水力発電、火力発電、原子力発電、太陽光発電、風力発電、地熱発電、バイオマス発電の発電方法の特徴や課題」などを確認し、「日本はこれからどの発電を増やしていくべきか。1 つ選んで理由を書こう」という学習課題に取り組みました。

2019 年度から 2021 年度に担当した 2 年生の生徒 233 人が選んだ結果は、多い順に太陽光発電 118 人 (50.6%)、バイオマス発電 51 人 (21.9%)、風力発電 37 人 (15.9%)、水力発電と地熱発電、各 10 人 (各 4.3%)、原子力発電 4 人 (1.7%)、火力発電 3 人 (1.3%) でした。太陽光・風力・地熱・バイオマスの再生可能エネルギーによる発電を選んだのは 216 人 (92.7%) でした。

それぞれの発電方法を選んだ理由は次の通りでした。

1. 太陽光発電

- ・太陽の光なら、お金がかからなくて良い。
- ・太陽光だけで発電できるのがとても良い。例えば火力発電だと、石油や石炭などの資源を使わ

なくてはならず、輸入がもっと増えてしまう。資源や土地をあまり使わずに発電できる太陽光発電が良い。

- ・理由は3つ。① 人体に害がないこと。原子力発電は万が一のことがあった時に危険だし、二酸化炭素は環境破壊につながることもある。② 騒音被害や場所の問題が少ないこと。太陽光発電は民家の屋根や少しの空き地でもすることができる。③ 燃料を消費する必要があること。他の発電方法は石油などの化石燃料やバイオマスなどを燃やすことで発電しているけれど、太陽光発電は太陽光さえあればいつでも発電でき、環境的にはこの発電方法がいい。

2. バイオマス発電

- ・人が生活していく上で生じた廃棄物等からエネルギーを作り出すものなので、地球に優しい発電方法である。天候にも左右されないからよい。
- ・火力発電のように、化石燃料を輸入する必要がある。
- ・現在、日本では多くのごみが捨てられ、環境面の問題として「ごみ問題」が挙げられている。そんな日本だからこそ、バイオマス発電を活用すべきだ考える。木質廃材や生ごみを減らすことと、発電することを同時にできるという、一石二鳥な発電である。また、日本は二酸化炭素の大量発生による問題も抱えている。バイオマス発電はCO₂を排出しにくいという利点もあるので良い。

3. 風力発電

- ・原子力発電のような危険な物質がなく、火力発電のように環境に影響を及ぼさず、安定している。
- ・離島にも置けるし、風だけで発電するので、自然にも優しい。
- ・日本は海に囲まれていて、海の近くは風が強いから、日本に最適である。太陽光発電は曇りや雨、夜には発電できないが、風力は一日中できる。

4. 水力発電

- ・日本は雨が多く、水がたくさんある国なので、それを利用すれば良い。
- ・水資源しか使わなくてよく、日本は山地が多いから良い。また、火力発電は地球温暖化の原因になる温室効果ガスを出し、原子力発電は災害が多い日本では事故が多くなるから、水力発電の方が良い。

5. 地熱発電

- ・日本は火山がとても多いので、火山などによる地熱を利用する地熱発電は日本に合っている。
- ・水力発電や火力発電、原子力発電は危険で環境に悪いし、太陽光発電や風力発電は天候に左右されるから安定していない。バイオマス発電は生ゴミにプラスチックが混ざっていたら、有害な物質が出てしまう。

6. 火力発電

- ・家電などが普及してきているこの時代には、安定した電力の供給が可能で、発電量の調節ができる火力発電が一番良い。でも、やはり二酸化炭素の放出などは環境によくないので、改善が必要だ。

7. 原子力発電

- ・事故が起きたら危ないけど、少ない資源で一番安定してたくさんの電力を供給でき、CO₂の排出を抑えることができる。
- ・理由は3つ。① 海水を冷却水として使っていることから、島国の日本ではどこでもできる。
② CO₂を排出しないことから、地球温暖化対策になる。③ 効率よく安定している。事故は最新技術を利用して対策すればいいと思う。

日本がこれから増やすべき発電方法を選ぶとき、生徒は何を大切にしたいのでしょうか。多くの生徒が大切にしたいことは、環境への配慮と安全性です。環境を守ること、環境を悪化させないこと、事故の危険がないこと、事故による大きな被害がないこと、などを考えて、発電方法を選んでいました。発電方法を比較しながら、原子力発電については、「事故の被害が大きい」、「大きい事故があると危ない」、「地震が来たら危ない」、「放射性廃棄物の最終処分場の場所が問題」とメモする生徒が何人もいました。

授業の後半で、生徒は自分が選んだ発電方法とその理由を発表し合い、最後に友だちの意見を聞いて考えたことを文章にまとめました。まとめでよく見られたのは、「自分はこの発電方法を選んだけど、別の発電方法も日本によいと思った」という文章でした。「別の発電方法」とは、太陽光・バイオマス・風力・地熱・水力発電で、火力発電や原子力発電はひとつも選ばれませんでした。今後増やすべき発電に原子力発電を選んだ生徒も、「自分は最終的には太陽光発電がいいと思った」、「自分は原子力発電がいいと思っていたけど、太陽光発電もいいと思った。これからのことを考えると、発電は資源や環境を大切にできる方法がいいと思った」と書いていました。

ある生徒は次のように書いていました。

「どの発電方法も課題があるから、一番解決可能な課題のある発電をこれから選んでいくといいと思った」

この指摘はとても重要です。これは言い換えれば、解決が不可能な課題を持つ発電方法は選ぶべきではないということです。東電福島第一原子力発電所の核燃料デブリをはじめ、日本で生み出され、また今後生み出されていくたくさんの放射性廃棄物の問題は、どこで、どのように解決するのでしょうか。将来、もし大きな自然災害、あるいは他国からの攻撃によって、一度に多くの原子力発電所が損壊し、大量の放射性物質が放出されたら、誰が、どのように対処し、どこに避難するのでしょうか。仮に、原子力発電で「CO₂が排出されず、地球温暖化対策」になったとしても、「効率よく安定的な電力」が得られたとしても、長い、長い年月と広い範囲にわたって環境と安全を脅かし続ける発

電方法を、私たちは今後も続けて良いとは思えません。

若い世代は、持続可能な世界の実現について考え、課題解決のために行動するようになっています。私たち大人は、若い世代の声にもっと耳を傾け、彼らが生きる未来の世界についてもっと考え、努力すべきです。特に、北陸電力をはじめとする電力会社は、負の遺産＜原子力発電所＞を未来に遺すべきではありません。原子力発電をやめ、再生可能エネルギーによる発電をもっと増やすことを加速させていってください。

中学生が考えたように、発電方法は環境への配慮と安全性を重視すべきです。加えて、解決が不可能な課題を持つ発電方法は選ぶべきではありません。核燃料デブリ、放射性廃棄物、事故発生時の避難など、原子力発電は数多くの深刻な課題を抱えています。裁判所は、これらの課題解決の見込みが立たない志賀原子力発電所の運転を差し止め、廃炉にしてください。「長い将来にわたって安全な環境で生きる権利」を保障してください。

以上で私の意見陳述を終わります。